

令和4年度 ファルマバレープロジェクト第4次戦略計画検討委員会 議事録

日時：令和5年2月7日（火）午後2時～午後4時

会場：オンライン

1 開会

2 挨拶

静岡県 経済産業部 部長 増田始己

3 プロジェクトの進捗状況

(1) ファルマバレープロジェクト（報告）

＜経済産業部理事 村松毅彦＞

- ・ファルマバレープロジェクトの20年の歩みと次なるステージを報告【資料2】

(2) 健康長寿・自立支援プロジェクト（報告）

＜ファルマバレーセンター：ファルマバレーセンター長 植田勝智＞

- ・健康長寿・自立支援プロジェクトの推進状況について報告【資料3】

(3) 山梨県の取組紹介

＜山梨県：成長産業推進課長 行村真生＞

- ・メディカル・デバイス・コリドー推進計画の取組について紹介【資料4】

(4) 医療田園都市構想

＜新産業集積課長 小笠原彩子＞

- ・医療田園都市（メディカルガーデンシティ）構想について紹介【資料5、資料6】

4 意見交換（委員の主な意見）

《尾池委員》

- ・沼津高専・山梨大学を中心とした産業人材育成のプログラムが非常によく機能し始めているように思っている。特定の分野で活躍しているように思うが、この医療田園都市構想では、様々な分野が必要になってくる。
- ・様々な大学や研究機関から人材育成に参加してもらうことが必要であり、静岡県立大学も協力できる面では協力していきたい。
- ・地域的に富士山の麓に近いことや地震が想定される活断層が近い等、自然災害への対応についても、専門家と連携して対応していく必要がある。

《大石委員》

- ・ 2004年に静岡新聞社より発行した書籍、「動き出したファルマバレー構想」により、しっかりファルマバレープロジェクトの方向性を示したことは非常に良かった。
- ・ 地域づくりでは、長泉町が非常に発展した部分があるため、東部地域全体あるいは県全体で、地域づくりが広がっていくとよい。
- ・ 特に、これから地域の経済、あるいは地域の生活を考えるときに高度医療に対する住民の期待が非常に高いことは、様々なアンケートで出ている。ぜひ大学院大学も含めてその中核を担っていけるようにしていただけるとありがたい。

《解良委員》

- ・ ファルマバレープロジェクトの振り返りで、計48社が医療機器製造業等の業許可を取られたと嬉しい話もあった。我々も、メーカーとして協力できることは非常に少ないかもしれないが、昨年度から富士山麓医療機器開発エンジニアリング養成プログラム、通称F-metと呼ばれる沼津高専で開催している養成プログラムに弊社として、製販業の講師、安全管理責任者の講師の2名が講義をさせていただいている。
- ・ このような活動を通して、静岡県それから山梨県に、引き続き協力していきたい。ファルマバレープロジェクトの今後の発展に期待していきたい。

《齋藤委員》

- ・ 静岡がんセンターができて、がん治療の拠点としては、もう揺るぎないものである。
- ・ ファルマバレープロジェクトは、県東部全体にまだまだ浸透していない部分もある。
- ・ 特に自立のための3歩の住まい（ファルマモデルルーム）は、患者さんにとって非常にメリットがある。県全体に発信し、浸透する取組があるとよい。

《西島委員》

- ・ 高齢者向けのヘルスケア、民間企業と組んで頑張っていきたいと考えている。
- ・ フレイル予防だとか、認知症予防、この辺はしっかり民間の人たちと組んで取り組むべきである。
- ・ 一つはクレマチスの丘、この辺は美術館などもあり、フレイル予防に関しては非常にいい場所であるため、身体的、心理精神的な衰えや、社会性の衰えを考慮して、まちづくりに取り組む必要がある。

《橋本委員》

- ・ 静岡がんセンターは、日本でも有数の病院に成長し、実績も挙げている。
- ・ 3歩の住まいは、非常に期待ができる。山梨県のメディカル・デバイス・コリドーは良い取組であり、両県が協力して実施することも非常に期待ができる。
- ・ 高度な医療を展開している静岡がんセンターが県民全体に広がるように、展開を考えていただきたい。

- ・ 医療田都市構想は、東部地域を対象ということだが、県全体も視野に入れたものに拡大していただきたい。
- ・ 2点目として、今ベンチャー企業は非常に元気なところが多いが、それに対する支援が県の方でもうまくできていない。
- ・ 静岡県内には非常に優良な企業、特に機械系を中心にたくさんあるため、そのような企業などと連携をしながら新しい企業を作っていくなど、そういうことを支援していく視点が必要である。
- ・ 医療田園都市構想は、その視点が抜けている。是非検討願いたい。

《廣部委員》

- ・ このファルマバレー構想はもう、20年が経過し、ここまでよくやったなと感じている。
- ・ 大学院大学は、地域にプラスをもたらすという視点が大事である。
- ・ 静岡県東部地域は、がん対策において非常に安全で安心な地域であることは間違いないが、超高齢化社会において、認知症とか高齢者の循環器系の病気は増加していくため、そういう対策も必要である。
- ・ 発展する企業に就職や大学院大学により若い人がどれくらい増えるのか、将来の人口動態も含めて構想を練っていただきたい。

《松田委員》

- ・ この20年よく本当にやってきた、頑張ってきたということで、大変敬意を表したいと思う。よくよく考えてみると、この20年は日本の失われた20年である。大変な努力を払ってきたと感じる。
- ・ 次の医療田園都市構想に移る前に、20年間の取組成果と課題をしっかりと踏まえていただきたい。
- ・ 次の20年を見据えて、飛躍させていくにはどんな知恵が必要かを踏まえた上で、なぜ医療田園都市構想なのかというのをきちんと固めていただきたい。
- ・ 田園都市構想は、東京方面のライフスタイルに対し、どんなライフスタイル、生き方を提案するのかということが本質的な問題になるのではないか。
- ・ 広い土地で一戸建てで、東京にはない豊かさ、そういうものを享受できる、それが人間本来の人間らしい生き方であるのような提案ができると思われるため、そのような視点を中心に新しい文化を提案していくことが良いのではないかと。
- ・ その他、まちづくりには移動が非常に重要になる。歩けるまちづくりをベースとし、モビリティ産業をどう取り込んでいくのかが重要になる。
- ・ もう一つは、いわゆる産業用掃除ロボットっていうのも地道に市場開拓しており、様々なロボット技術っていうのが、山梨県にもあるため、そういうロボット技術を取り入れていく必要もある。

《盛田委員》

- ・ 中小企業の町工場でよく 20 年やってきたなって感じである。
- ・ 人は無限の可能性があるので、自分達のできる範囲内、一步一步、焦らず取り組んでいく。
- ・ 生産も大きくなってきており、当初広いと感じていたファルマバレーセンターの施設が狭くなってきている。
- ・ これからもできることを頑張っていきたい。

《矢作委員》

- ・ この医療田園都市構想は極めて大きなプロジェクトであり、ファルマバレープロジェクトの一つとしてこの様な会議で処理して行くのは不適切である様に思う。
- ・ 独立したプロジェクトとした上で、まずしっかりとした理念つまり哲学を明確にした上で進めていかないと、これからの 20 年どうなるのか、持続可能かどうかの問題が出てくる。その作業もこの様な大人数の会議で短時間に各委員の意見を聞くだけでは無理と思う。
- ・ 住民が中心という指摘は当然非常に重要であるが、実際にこの提言書が出来上るまでに住民の声をきちっと聞いて組み立てていったのか、そのプロセスが重要である。
- ・ ファルマバレープロジェクトについては、静岡がんセンターの医療の恩恵を、この地域だけではなく、県民全体に広げていくべきは当然だが、既に世界的に高い評価を得ている静岡がんセンターの責任は世界の人々にその恩恵を還元していくべきである。立派になったという瞬間に、新たな社会的責任が生じているということを明確に意識していただきたい。

《山口委員》

- ・ 20 年という節目で、静岡がんセンターとファルマバレープロジェクトを合わせた 20 周年記念誌を作成中で、3 月末頃完成するため皆様にはお届けしたい。
- ・ 静岡がんセンターに関しては、20 年を振り返ってみると、最初に考えた計画の 8～9 割は達成できたと考えている。ファルマバレープロジェクトに関しては道半ばであると考えている。
- ・ これまでの 20 年を考えてみて、反省としては、ファルマという名前がついているにもかかわらず、創薬が達成されていないこと。
- ・ 10 年ぐらい前からかなり一生懸命取り組んでいるが、成果が上がっていない。大きな薬はまだ創出できていない。しかしながら、芽は出始めているので、本当の意味での創薬に繋げていただきたい。
- ・ 「3 歩の住まい」の取組は、これまで企業支援を主たるテーマとしていたファルマバレーセンターが独自の事業に初めて手をつけた点に意義がある。
- ・ 「3 歩の住まい」の取り組みは、超高齢化を迎える世界への展開を狙っている。超高齢社会は日本が最も先行して突入しているため、それをネガティブに捉えず、逆手にとつ

て、超高齢社会で自立して住民が生きていく、そのための、「3歩の住まい」を作り、中国等への販売を期待している。世界展開も期待できるだろうとそういった意味で20年後の3歩の住まいを考えていると言う点について、先ほどの植田ファルマバレーセンター長からの説明を捕捉したい。

- ・ 医療田園都市構想は、ファルバレープロジェクトの成果を基盤として、とくに「まちづくり」の分野で、「医療城下町」では患者さんと企業を中心に考えていたものを、「医療田園都市構想」では一般の住民の方にも恩恵が広げるという思想で構築している。
- ・ 「医療田園都市構想」に記載されている内容は、ファルマバレープロジェクトの評価において特に最初の頃からの矢作先生が主張されていたことをしっかり取り入れており、住民にとって、素晴らしい地域になるようにということを念頭に置いて、いろいろ考えた結果である。だが、確かに一番最初のファルマバレー宣言から、この医療田園都市の内容に関しては、若干乖離があるかもしれないため、今後修正をしていく必要がある。
- ・ 静岡がんセンターのがん医療については、を全県に広げるといった話もあったが、現状では、静岡県民のがん患者について、がんにかかった方の全県で2割、また、静岡県東部地域に限れば5割の患者さんは静岡がんセンターで診療を受けている。
- ・ 努力をしてこの20年間に、がん医療に関しては静岡、全県のレベルを様々な形で向上させてきているのは間違いないと思う。がん以外の、他の医療分野にどう広げていくかは今後の大きな課題である。

《山崎委員》

- ・ 私も最初の頃から参加しているが、20年、着実に進歩を遂げてきて、静岡がんセンターの山口総長はじめ、諸先生方が日常診療の中での努力や、それに関係する医療スタッフ等周辺の方々の努力があったからこそ、ここまで進んできた。そこに関わってきた行政も、頑張ったというふうに思っている。
- ・ 新しいビジョンが二つ、大学院大学と田園都市構想が出てきた。
- ・ 大学院大学については、学際棟や融合研究の拠点となる施設の建設を行い、大学院大学のシンボルになるようにするべきである。このための資源を十分に確保すべきである。
- ・ 外国の研究者とか、外国の医療人たちが来て、共同で様々なことに取り組むということになると、そういう場所が必要である。
- ・ これだけ高い理念を持ったクラスター、地域の活性化というのは、全国でもここだけであり非常に優れていると思う。がんセンター、ファルマバレーセンターを中心とした駿河平の地区について、大学院大学や田園都市構想などを考慮し、クラスターパークとしての全体的なデザインをする時期に来ていると思う。

《若林委員》

- ・ これまでの20年間のファルマの取組は、大きく進展をしたと思うし、評価の高いプロジェクトであるということは、皆さんの一致した意見である。
- ・ 次の20年についても、各委員からご指摘があったように、この医療田園都市構想とい

うのは非常に素晴らしい構想だと思っている。

- ・ 医療田園都市構想の中心は、住民としてまちづくりの取組を強化するための政策として位置付けることが、重要なポイントになる。
- ・ 一般住民の方々に情報提供をし、又は情報交換をして、高い意識を持ってまちづくり医療田園都市構想に参画してもらおうということが、この構想の実現に向けて大きな影響を及ぼす。
- ・ 住民へのアプローチには少し時間がかかるが、根気よくその点を強化をして、ぜひこの構想が早く実現に向かって進捗することを期待している。

《土居ファルマバレー技術顧問》

- ・ 基本は、皆さん方と同じ素晴らしいの一言である。
- ・ 20年前、我々は世界を目指そう、そして日本を牽引していこうということでこのプロジェクトを大議論した。
- ・ 混迷した日本を打破するには、何といても若い力だと感じている。
- ・ 若い力だけでは駄目で、老練の知恵、そういう意味でファルマバレーの先生方は老練の知恵があるが、今この場に欠けてるのは、若いバリバリの最先端である。イノベーティブなS o c i e t y 5.0を作り出す企画者が必要である。
- ・ 静岡がんセンターは、日本政府にとって日本にとってなくてはならない中核センターとなっている。
- ・ 日本は世界的にも医学教育はもう最低レベルだという評価なので、まさに日本世界をリードするが医療者の教育拠点、そしてそこから新しいものをどんどん生み出す拠点、そういうものをぜひこの大学院大学に期待したいことと、非常に知恵の豊富な老練の方々をうまく活用した若者による20年の事業展開ビジョン形成、これなしには医療田園都市構想は絵に描いた餅になってしまう。よろしく願いたい。